

22 救急救命士の指示なし除細動により社会復帰を果たした特発性心室細動の1例

丸山 正則・本田 博之・石井 秀明
政二 文明*・藤井 正人**・広瀬 幹夫**
新潟県立中央病院麻酔科
同 循環器科*
上越地域消防事務組合**

早期除細動への認識が高まり、本年4月から救急救命士に包括的指示下、いわゆる指示なし除細動が認可された。その直後、指示なし除細動により完全社会復帰を果たした心肺停止例を経験したので報告する。

症例は25歳男で、突然倒れ、救急隊到着時心肺停止状態であったが、病着前3回の除細動により心拍再開した。病院到着当初蘇生後脳症の様相を呈していたが、翌日には意識回復し、一ヵ月後何らの後遺症もなく退院した。その後の精査で特発性心室細動と診断された。指示なし除細動によりCPA患者の社会復帰率の向上が期待される一方、我が国では初期調律がVFであることは少なく、VF比率の向上が、指示なし除細動の成績の鍵を握るものと考えられる。

Ⅱ 特 別 講 演

「産科麻酔の常識を見直す—一日米の産科麻酔の現場から—」

埼玉医科大学総合医療センター
総合周産期母子医療センター
周産期麻酔部門

照 井 克 生

第1回新潟クリニカルパスフォーラム

日 時 平成15年11月28日(金)
午後6時～8時40分
会 場 新潟大学医学部 有壬記念館
2階 大会議室

一 般 演 題

1 当院におけるクリニカルパスの実施状況

小松原秀一・鈴木ヒロ子・梨本 篤
秋山 修宏・太田 玉紀・大沼 明子
田村 智子・菅井 岳美・池田 良美
佐藤恵美子・鏡 文江・五十嵐貞子
津野 恒子

新潟県立がんセンター新潟病院
クリニカルパス推進委員会

当院では医療の質の向上と医療プロセスの効率化を目指して1998年6月、2種類のCPの運用を開始した。1999年5月には研究会をCP推進委員会が発足し、CPの推進、分析、新規CPの承認作業を行ってきた。2003年7月現在80種のCPがあり、同月実施数は345症例であった。平均在院日数は導入前に27日(病床利用率97.3%)であったものが、2003年7月は14.5日と減少した。この間、一時下降気味だった病床利用率は同月96.5%と回復し、実質増床、増収に貢献している。薬剤管理指導料請求の件数がCPに組み込まれた後に増加が著しい。CPを契機にその意義が広く認識されたもので、CPの波及効果の例である。各部門の相互理解が高まるとともに、役割分担が明確になりチーム医療に貢献した。今後もなおいっそうのCP推進を計るとともに、医療の質の更なる向上への努力が求められているものと考えている。